

第4回徳島新時代における防災情報発信検討会 質疑録

- 1 日時 令和6年2月8日（木） 午後2時00分から午後4時00分まで
- 2 会場 徳島県庁 万代庁舎11階 講堂
- 3 出席者 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 金井委員
四国大学 経営情報学部 山本委員
西日本電信電話株式会社 徳島支店 副支店長 長尾委員
日本放送協会徳島放送局 コンテンツセンター センター長 武市委員
四国放送株式会社 報道制作局報道部長 野口委員代理
株式会社工フエム徳島 編成製作部部長兼事業部部長 松利委員代理
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所 流域治水課長 道谷委員
気象庁徳島地方气象台 防災管理官 坂地委員代理
徳島市危機管理局 次長 吉田委員
美波町消防防災課 課長 前野委員
徳島県経営戦略部 秘書課 県政広報幹 玉岡委員
徳島県県土整備部 道路整備課 課長補佐 秋山委員代理
徳島県県土整備部 河川整備課 課長補佐 佐藤委員代理
徳島県県土整備部 砂防・気候防災課 課長補佐 馬越委員代理
徳島県危機管理環境部 平井部長
徳島県危機管理環境部 佐藤次長
徳島県危機管理環境部 危機管理政策課 飯田課長
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 鈴江課長
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 加藤副課長
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 横山課長補佐
徳島県危機管理環境部 とくしまゼロ作戦課 中野係長

4. 質疑応答

(1) 徳島県 SNS 等防災情報発信マニュアル（案）について

(A委員)

- ・文例集の「県民の皆様へ」は「県内の皆様へ」等に変更した方が良い。
- ・文例は、最初に伝えるべきメッセージが入っているところが良い。

(事務局)

- ・「県内の皆様へ」に変更する。

(B委員)

- ・県内にたまたま滞在する出張者や訪日外国人旅行者等にも呼びかけるべきであるので、「県民の皆様へ」は変更した方が良いと思う。

(事務局)

- ・表現を変更する。

(C委員)

- ・県公式 LINE の登録者数が3万人に増えたことで、県民の方から何か御意見等はなかったか。徳島市でも参考にしたい。

(事務局)

- 受け手に不要な情報が発信されているという意見がある。
発信文は、本当に必要な情報に絞り込んでいるが、どこまで発信したら良いのかは、今後も検討していく。

(C委員)

- この間の大雪の時のような発信は良かったと思う。
- タイムリーな情報は、どんどん出すべきだと思う。

(D委員)

- マニュアルの19頁と20頁の津波情報だが、
右上に「津波注意報（津波警報）が発表されています」と入れた方が良いと思う。
- 「県民の皆様へ」は文章から省いても良いと思う。

(事務局)

- 注意報等の発表情報は入れる。
- 津波は一刻を争う状況なので、余計な情報は省くつもりである。

(E委員)

- 臨時情報の文例もあった方が良いと思う。

(事務局)

- 臨時情報も追加する。

(B委員)

- マニュアル7頁目の「トラブルが発生した場合」の一番下の文章だが、
「県が利用者の意見を無視しているかのような誤解を招かないようにする」とあるが、
内々の表現になっているように思うので、「県が利用者の立場に立って」等の
表現に変更した方が良い。

(事務局)

- 変更する。

(F委員)

- 責任の所在については、マニュアルに記載いただいたと思う。
- トラブルへの対応だが、例えば徳島河川国道事務所では X は情報発信限定としている。
- マンパワーもあるので、全てに対応するのは難しいと思う。

(事務局)

- 発災時は人手が足りなくなるので、その辺の対応も考えなければならないと思う。

(E委員)

- 県公式 X だが、最近凍結したが問題はないか。

(G委員)

- 確かに県公式 X が、原因不明のまま凍結した事がある。
- そのような場合に備えて、複数のツールで発信することが必要である。
- 凍結に関する事前の対策は難しいが、発生時の対処方法について、
事前に検討しておくべきである。

(2)「安心とくしま」ホームページの刷新（案）について

(H委員)

- 情報発信とも関連するが、災害時モードで災害情報を大きく表示するのであれば、
SNS 等の着地点は、キキクルではなく、安心とくしまホームページに
すれば良いと思う。

(事務局)

- ・基本的には、安心とくしまホームページに着地するよう見直したいと思う

(C委員)

- ・災害時モードだが、自動的にページが切り替わるようにした方が良いと思う。
元日の能登半島地震では、石川県のページはずっと変わらなかった。

(事務局)

- ・県に災害対策連絡本部が設置された時に手動で災害時モードへ切り替える事を想定しているが、元日のように県の職員が手薄な時にも対応出来るよう、宿直員にもしっかりと教育しておく。

(B委員)

- ・最近14カ国対応のホームページがある。
- ・県内には、少数ではあっても英語が分からない人もいると思う。
- ・ぜひ多言語についても検討してほしい。

(事務局)

- ・SNS等での発信文について、表題だけでも多言語化出来るよう検討したいと思う。
後で説明する予定だったが、資料4のとおり県公式LINEでも多言語化を考えている。

(I委員)

- ・災害時モードでも平常時モードは見る事ができるのか。

(事務局)

- ・平常時モードも見たいという事もあるかと思うので、災害時モードに切り替わっても、どこかで平常時モードが見えるようにしたいと思う。

(I委員)

- ・安心とくしまホームページは、携帯やスマートフォンベースが基本と思う。

(F委員)

- ・災害時でも、平常時のページが見える事は大切だと思う。
- ・それと、令和2、3年の大雨の時に、気象庁のサーバがダウンした事があるので、ホームページで見える部分だけでなく、見えない部分のシステム的な増強も必要だと思う。

(事務局)

- ・検討する。

(A委員)

- ・安心とくしまホームページと県公式SNSはリンクするべきだと思う。
- ・安心とくしまホームページをプラットフォームとして、そこからSNS等、全部辿っていけるようなものが良いと思う。県公式Xが止まった時の対処にもなる。
- ・また多言語化について、1つのホームページで14言語化の対応出来る業者もいる。

(事務局)

- ・安心とくしまホームページを中心にしていけるよう検討する。

(E委員)

- ・県内WIFIステーションの整備も検討してほしい。
県や市町村の公共施設でフリーWIFIを使えるようにしてほしい。

(事務局)

- ・関係部局と連携をとっていく。

(3) 県公式 LINE 登録促進について

(H委員)

- 登録促進については、新入社員や新入生等にアナウンスすれば良いと思う。
- インバウンドの人にどうやってアナウンスを行うのか。
例えば、インバウンドの人向けに観光コンテンツも入れてみるとか。
裏では防災対策につながる。
- また1月に登録者数が増えたのは何故か。

(事務局)

- 能登半島地震が発生してから、関係団体にも周知している。
また新聞広告も行っており、総合的に増えたと思う。